

令和4年度 第2回学校運営協議会会議実施報告書  
(兼 地域産業担い手育成協議会)

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第10条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 岐阜県立中津川工業高等学校 学校運営協議会 (第2回)  
(兼 地域産業担い手育成協議会)
- 2 開催日時 開催日時 令和4年11月24日(木) 13:30~16:30
- 3 開催場所 中津川工業高等学校 仰星会館
- 4 参加者
- |       |        |                        |
|-------|--------|------------------------|
| 会 長   | 松井 進   | 本校同窓会長                 |
| 副会長   | 小川 恵一  | 坂本地区民生委員長              |
|       | 黒田 ところ | 中津川市議会議員               |
|       | 加藤 早苗  | 株式会社大同キャスティングス         |
|       | 大山 安彦  | 本校育友会長                 |
|       | 尾関 里恵子 | 株式会社デンソーテン 中津川製作所 (欠席) |
|       | 平井 菜月  | 三菱電機株式会社 中津川製作所 (欠席)   |
| 学 校 側 | 加藤 信男  | 校 長                    |
|       | 斉藤 良成  | 事務長                    |
|       | 藤浪 元明  | 教務主任                   |
|       | 水谷健太郎  | 生徒支援主事                 |
|       | 山田 豪   | 進路支援主事                 |
|       | 後藤 昭博  | 工業部長                   |
|       | 辻 和宏   | 教務部：記録                 |
|       | 伊藤 岳明  | 教 頭 (欠席)               |

5 本年の取組について

(1) 学校長より (学校の現状について)

コロナの感染状況について11月初旬は感染拡大したが、現在は濃厚接触者、陽性者はいるがわずかである。教室の換気や感染予防対策等を行い食い止めている。落ち着いた学校が戻ってきている。学校行事では、体育祭・文化祭を行った。体育祭では、新聞記事に掲載され、「伝統の応援合戦復活」と掲載され、応援合戦は一切声を出さないという条件の中で、生徒は考えて活動できていた。バックの絵は例年より小さくなったが時間内に作成し、応援の人文字に関しても、

限られた練習時間の中で集中して覚え披露できた。活動はまとまって行い、規律のあるものだった。文化祭では、密になってしまったクラスはあったが、クラスまとまってできていた。

学習環境については、実習装置が古く、校舎の建て替え等も課題がある。体育館では結露する問題を、大型の除湿器数台を導入し対応するための電気工事を行っている。

地域産業の人材育成、学校と地域、主体的な学び、人材育成と人間育成をすること、学びの蓄積等、これらの学びや育成ができる環境を整えていく必要がある。

## (2) 教務部より

YouTube、SNSを活用して学校の様子をPRした。また、坂本地区「回覧板」に体育祭などのイベントを紹介する情報発信を行った。中日新聞、岐阜新聞、ケーブルTV、情報誌「maika」等外部メディアへ情報提供・発信するとともに、本校ホームページからより情報が得られる特設ページを作成しPRしている。

## (3) 生徒支援部より

3年生の進路状況は工業系の求人数は増えており、就職者については公務員を受験した6名の結果待ち以外は決定し、就職者の比率としては、恵那・中津川市で50%以上、県内就職者は70%近くとなっている。コロナ渦ではあったが、地元企業見学会やインターンシップを実施することができた。また、インターネットを利用した進路希望調査や求人票の公開を行い、保護者にも求人票を閲覧できるようにした。1・2年生の進路ガイダンスの回数を増やし、適性検査を実施し、ミスマッチがないよう対策を実施した。

## (4) 工業部より

地域連携については、中津川市こども科学館、坂本の自治体主催のものづくり教室、恵那市こどもフェスタ等ともものづくりについて連携を行った。また、第二中学校へ出前授業を計画し、130名の生徒を対象に出前授業を行う予定である。ふるさと教育として、今まで行ってきた活動について岐阜県で発表を行う予定である。様々な年代と交流することで自己肯定感を養い、コミュニケーション能力を高める支援を行っている。

## (5) 学校評価アンケートの結果

生徒・保護者アンケートを7月に実施しこのような結果が得られた。

## 6 会議の概要（協議事項）

### (1) 学校からの状況説明について

意見1：リニアの工事の影響で通学路の変化はあったのか。

⇒裏から通れる道路があったが使用できなくなり、車道を歩いている。小中学生も利用しているので、すれ違う際は交通状況を確認してから車道側を通るように話をしている。県道であるが、拡幅工事はできないと聞いている。いろいろな方面で相談し、改善できるよう要求している。

意見2：夜制服で歩いていると歩行者として見えにくいので、反射材等持たせるとよい。

⇒貸出等広報しているが、今のところ誰もいない。女子生徒のなかで、ライト等をもって帰宅している。

意見3：登下校の時に二列、三列にならないように指導するとよい。

⇒今までも指導しているが、事故が起きてからでは遅いので引き続き注意・指導していく。

意見4：学科群の募集要項となり、弊害はないか。クラス分けの方法はどのような方法か。

⇒特に弊害はない。現場としては1年生から学科の特色をだした教育ができるため、昨年度までの募集方法のほうがよかったと感じる面もある。

⇒2年生クラスの分け方は、1年生の11月から各科の紹介をし、12月の保護者懇談で決めていく予定である。

意見5：学校近くの道が細く県外から来た車がカーブで突っ込んでくるため、夜間の制服は見えづらい。反射板のウィンドブレーカーを着て対策したらどうか。

⇒費用が掛かることや道路交通法などの観点から、警察と協力して検討していきたい。

## (2) 頭髪身だしなみの基準について

意見1：「かげきでないもの」という基準については、かげきという抽象的なものではなく具体的に決めてはどうか。

⇒いろいろな髪形があるためその都度対応していく。

意見2：書面には「清潔感」とあるが、基準に入れないのか。

⇒生徒会が作成した基準の中にはなかった。生徒会の文章を尊重したい。

## (3) 今後の本校の進むべき方向性について

卒業後に地域の活性化に貢献できる人材育成カリキュラム開発と、最高峰技術の担い手を育成するためのカリキュラム開発（オペレーターの育成）をし、地域に貢献できる人材育成のための独自戦略を構築したい。東のものづくりの拠点として本校を位置づけたい。

意見1：技術を養ってほしい。記憶力と判断力はコンピュータが強い。創造力を伸ばす教育をしてほしい。頭を柔らかくし、ソフトに考えができる生徒にしてほしい。ユニークな考え方、知恵を持つ生徒、オペレーションの基礎技術を習得し世の中へ展開できるとよい。

意見2：ボランティアで経験できることを大切にしてほしい。

意見3：重機についてもICTである程度入力して動く技術が発達している。自動化は建設関係でも大切だといえる。ボランティアで地元のイベントで中学生がゴミ集めをしてくれる。高校生も経験しているので引き続きおこなってほしい。

## (4) ものづくりの拠点について

社会に開かれた、地域に開かれた学校が、ものづくりの拠点として人が集い活発に意見交換や、相談できる場所。学校がそのような拠点となることはどうか。

意見1：中津川市としては、ものづくり拠点の考えはない。本校は県立であるため。ものづく

りにおいて本校は必要な高校ではある。

意見2：建築関係では、かしも明治座がある。様々な取り組みをし、大学生や観光バス等でたくさんの方が集まる。市と一緒に拠点づくりを提案してはどうか。

意見3：中津川市を発展させるという趣旨で動くとはよいのではないか。企業として協力・参加できるのではないか。

意見4：地域に開かれた仕組みができるとよい。加子母ではバス停を木造で作っている。地域と一緒に作成している。いくつもの大学（建築系）が来ている。（木工塾等）

意見5：ものづくり拠点としての構想に賛同する。（全会一致）

#### （5）その他（学校運営協議会の開催日等）

第3回 1月末～2月上旬 課題研究発表会

#### 7 会議のまとめ

「校則の見直し」については、時代の変化を捉えつつ、生徒からの意見を聞きながら柔軟に対応していくことで今回の提案が認められた。

ものづくりの拠点として、本校又はその機能を有する施設（設備）について、是非実現してほしいプランであり、人が集う「ものづくりの街」として、夢のある新しい発想をもった人材が育つような取り組みになるよう期待したい。今回の会議で本校が進むべき方向性を確認することができた。